

# 鴨川ふるさと会だより

— 第16号 —

鴨川ふるさと会発行 事務局：〒296-8601 千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所企画政策課内） TEL：04-7093-7828

## 平成28年度定期総会を開催します

### 総会終了後に、市執行部との懇談会や ふるさとセミナー、懇親会を併催

セミナーテーマ「鴨川市の近代と人々」

#### 平成28年度 鴨川ふるさと会 定期総会等のご案内

- 日時 平成28年8月7日（日）  
13：30～17：30（予定）
- 場所 ホテルグランドヒル市ヶ谷  
東館2階「白樺の間」外  
（JR市ヶ谷駅より徒歩3分）  
東京都新宿区市谷本村町4-1  
電話 03-3268-0111
- 内容
  - ◇定期総会
  - ◇長谷川市長からの市政概要説明・市執行部との懇談会
  - ◇ふるさとセミナー  
高林直樹氏のご講演
  - ◇会員及び市執行部との懇親会
- 会費 会 員 4,000円  
会 員 家 族 2,500円

※内容については、変更となる場合がございます。予めご了承ください。

鴨川ふるさと会の平成28年度定期総会を8月7日（日）午後1時30分から、ホテルグランドヒル市ヶ谷で開催します。総会では、平成27年度事業報告や決算報告、平成28年度事業計画案や予算案、役員の改選などについてご審議いただきます。

終了後には、皆様のご意見・ご提言を市政に届けるため、市執行部をお招きし、鴨川のまちづくりについて会員の皆様との懇談の機会を設けます。どうぞ、ふるさと鴨川の発展のために、皆様がお持ちのご意見やアイデアをご提言ください。

さらに、ふるさとセミナー（郷土についての学習会）として、鴨川市史の編さん・執筆

筆におよそ25年間従事している高林直樹氏をお招きして、ご講演いただきます。

セミナー終了後には、会員の皆様に交流を深めていただくため、懇親会（お楽しみ抽選会も行います）の場を設けます。気の許せる同郷の仲間と、ふるさと鴨川の今昔について語り合うひと時をお過ごしください。

当日は、ご家族等（会員でなくても構いません）のお誘い合わせも大歓迎ですので、皆様、ぜひご出席ください。※出欠については、この会報に同封の出欠票にて、事務局へご回答ください。会場準備の都合上、7月22日（金）までに返信くださるようお願いいたします。

#### ふるさとセミナー 講師のプロフィール

姓名(カナ)：高林 直樹(たかばやしなおき)氏 千葉県松戸市在住

現職：聖徳大学AO入試研究センター教授、鴨川市史編さん・執筆委員

経歴：1951年吉尾村に生まれる。大学では地理を専攻、卒業後は千葉県内の高校教諭、千葉県史料研究財団事業第1課長、公立高校長を経て現職に至る。この傍らで、千葉県史、千葉県議会史、鴨川市史をはじめ県内の市町村史等の執筆に従事。特に鴨川市史の編さん・執筆には約25年間従事し、市史編さん室の方々の協力を得ながら「鴨川市史通史編」「鴨川のあゆみ」や旧町村別の「あゆみ」シリーズを刊行した。





外房の海

「県野球最強時代、あの頃」小湊編

鴨川ふるさと会理事

四宮裕爾

毎年故郷での小中学校同級会がある。さしたる話題があるわけでもない。しかし口にはしないものの、各人には故郷で過ごした各人なりの秘めた思いがある。今から半世紀以上も前のことながら、私は鮮明に覚えている。

まず、1957年（昭和32年）秋も遅い頃、今は無き小湊中学校は、夷隅郡にある大原高等学校グラウンドにおいて親善野球大会へ参加していた。準決勝、夷隅中学校との試合は薄暮試合となったが、我が小湊中学校は9回裏まで1対0で勝っていた。しかし、三塁にランナーを背負いピンチである。二塁手からコンバートされた急造投手の私は捕手のサインに首を振った。そんな動作が何度か続いた時、突然主審が両手を振り停止のジェスチャーをする。試合は中止され、再試合とするのかどうかは監督同士の話し合いに委ねられたことから、私たち選

手は先に帰ることとなったが、話し合いの結果はその日のうちに発表され、私たち小湊中学校は晴れて勝利となった。当時、夷隅中学校は夏の県大会の準優勝校であり、その時の優勝校は、後に銚子商業高等学校を甲子園全国優勝に導くこととなる名将が率いる銚子市立第一中学校であった。ちなみに、その夏の県大会の出場をかけた安房郡大会の決勝は岩井グラウンドで行われ、岩井中学校、大山中学校、小湊中学校の3校での争いとなった。我が校は大山中学校とは予選で対戦し勝利していたが、決勝トーナメントでは初戦で岩井中学校に敗れてしまったため、大山中学校とは戦うことなく、県大会出場を逃す結果となっていた。

その10年後の1967年（昭和42年）、夏の甲子園で習志野高等学校が千葉県初の全国優勝という快挙を成し遂げた。偶然にも、私はその翌年の4月、その習志野高等学校へ国語教員として赴任する。そこで初めて深紅の大優勝旗を直に目にした。赴任して1年目の夏の県大会準決勝にて、我が習志野高等学校は先の名将が率いる甲子園出場常連の県立銚子商業高等学校と激突する。その当時の県高校野球

最強豪校同士の対戦だけに、応援席から目にする光景はとても迫力に満ちていた。また、県立銚子商業高等学校の大漁旗はまだ健在であった。チャンスになるとプラスバンドの「大漁節」とともに、何本もの大漁旗が振られるこの光景。結果、我が習志野高等学校は敗れ、あの深紅の大優勝旗は8月に甲子園に戻された。

その7年後の1974年（昭和49年）、県立銚子商業高等学校は念願である初の甲子園全国優勝を果たし、これに続くように、その翌年は習志野高等学校が全国優勝と、千葉県にとっては2年連続の甲子園全国優勝というすばらしい快挙を成し遂げる。その時、私は船橋東高等学校に転勤しており、残念ながら深紅の大優勝旗を再び目にすることはないと考えた。しかし、偶然にも小湊中学校の大先輩でもあるとある教員の実家で再びそれを目にする事となる。この教員の教え子は千倉中学校から県立習志野高等学校へと進学し、まずは選手として1度目の甲子園全国優勝、そして2度目の甲子園全国優勝を成し遂げるわけであるが、習志野高等学校への進学に大きく関わり、この教え子の「恩師」とも言うべきこの大先輩は、今でも小中学校同級

掲載記事を募集します！

事務局では、会員の皆様からの「鴨川ふるさと会だより」への掲載記事を募集しています。日頃感じていることや、ふるさと鴨川への想い、身の回りの出来事などを会員ページに掲載してみませんか。

今号では、理事の四宮裕爾さんに「外房の海「県野球最強時代、あの頃」小湊編」というテーマで、ご寄稿をいただきました。ありがとうございました。

今後も、この「鴨川ふるさと会だより」を、会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、どうぞお気軽にご利用ください。

\* 鴨川出身の方などの店をご紹介ください。

鴨川出身の方などが経営している店舗等を、会報に掲載し、会員の皆様にご紹介しています。自薦他薦は問いません。

同封の「ご紹介カード」に必要事項をご記入のうえ、事務局にご返送ください。

掲載についてのご了解等に関しては、事務局で再度確認をさせていただきます。ぜひ、情報をお寄せください。



内浦湾

会の話題にあがる。その後、小湊誕生寺に眠る大先輩の墓参りもここ何年かの私の行事となった。5月末、早くも今夏の小中学校同級会の案内状が届く。  
吾(あ)を育つ海上に寝(る)ぬ星月夜 平成25年10月



# オルカ鴨川FC

## トピックス

### ▼オルカ鴨川FC近況

昨年12月に「チャレンジリーグ」へ昇格したオルカ鴨川FCですが、2016シーズンに入っても快進撃は続き、6月27日現在において、開幕からの連勝&無失点記録を「11」に伸ばしています。

この「チャレンジリーグ」は、全12チームをEAST、WESTに分け、それぞれの上位2チーム、計4チームで総当たりのプレーオフを行い、年間順位を決定します。年間1位のチームは「なでしこリーグ2部」の10位のチームと自動入れ替え、年間2位のチームは「なでしこリーグ2部」の9位のチームと入れ替え戦を行うこととなります。

去る6月12日に富津臨海陸上競技場で開催された初の鴨川市外でのホームゲームでは、今季最高の観客数1410人を記録するなど、地域をあげての盛り上がりを見せています。引き続き応援をよろしくお願いします。

▼オルカ鴨川BUが発足  
オルカ鴨川FC



では、未来のなでしこを育成しようと、中学、高校、大学、社会人から構成される混合チーム「オルカ鴨川BU」(育成チーム)を2016年に新たに発足させました。

現在、千葉県女子サッカーリーグ2部に参戦しており、オルカ鴨川FCが達成できなかった1年目でのリーグ優勝を目指しています。

▼益城ルネサンス熊本FCへの寄付(被災地支援)

4月14日、16日に相次いで発生した熊本県益城町を震源とする最大震度7の大地震をはじめとする一連の熊本地震に際して、発生直後より被災地支援活動を精力的に行い、これらの活動で集まった82万9638円を益城ルネサンス熊本FCに寄付しました。

# 鴨川市納涼花火

鴨川大会  
小湊大会

7月29日(金)午後7時30分から8時20分まで、「日本の渚百選」に選定されている前原・横渚海岸を会場として、「鴨川市納涼花火 鴨川大会」が開催されます。

鴨川の花火大会の代名詞でもある水中花火をはじめ、スターマインなど6000発を打ち上げる予定。また、かりゆしクラブの三線演奏、星野通映氏と熊谷傳次郎氏の三味線と和太鼓の演奏も予定されており、水上で繰り広げられる鮮やかな花火を、この機会にぜひご覧ください。

また、8月16日(火)午後8時15分から8時45分まで、小湊漁港を会場として、「鴨川市納涼花火 小湊大会」が開催されます。

※ 荒天の場合は、順延となります。

※ 当日は、駐車場に限りがあり、会場周辺は大変混み合いますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

※ 問い合わせは、鴨川市観光協会(☎041-709210086)へ。



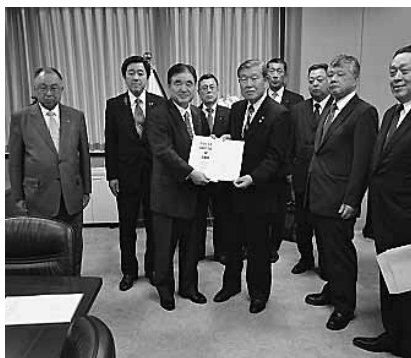
## 新規会員を募集しています!

本会では、年間を通して新規会員を募集しています。

今回、会報発送に併せて、会員募集チラシを同封させていただきました。

会員の皆様のお知り合いの方で、鴨川出身の方や鴨川にゆかりがあり応援したいという方へお配りいただくなど、会員の募集にぜひご協力ください。

## 2020年東京オリンピック サーフィン競技会場招致へ向けた取り組み



IOC（国際オリンピック委員会）に提案しているオリンピック追加種目の一つであるサーフィン競技の会場招致には、国内で、千葉県のほか、東京都、福島県、茨城県、神奈川県、静岡県などの8都県が名乗りを挙げているといわれており、県内では、九十九里、外房、それに本市を含めた南房総の16自治体と日本サーフィン連盟の県内4支部合同で、千葉県知事に対し、昨年11月26日にサーフィン競技についての千葉県開催の要望書を提出しています。これを受けて、本年2月3日には、千葉県知事名で東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会宛に、本県の優位性をアピールする要望書が提

出されました。

また、その後、千葉県の呼びかけにより、3月22日、県内16自治体が集まり、県内誘致をめざした関係市町村の連携強化と情報共有、協力体制の構築などを目的に「千葉県東京オリンピックサーフィン競技連絡会議」が設置されました。

現在、関係市町村が連携し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会への情報提供をはじめ、今後のIOCや、国際サーフィン連盟からの資料要求に備え、各地域の特性や宿泊施設についての資料作成を行うなど、各地での動きが活発化してきています。

一方で、本市における招致活動の状況ですが、本年2月9日に市内のプロサーファーやサーフィショップの方々が集まり、この機会を逃さず、鴨川市にサーフィン競技を積極的に招致しようと「東京オリンピックサーフィン競技会場鴨川招致委員会」を立ち上げました。その後、市内の事業者有志も加わり、2月26日には、東京オリンピック・パラ

リンピック鴨川市対策推進本部会議へ競技招致の特別委員会という位置づけで参画し、文字通り「オール鴨川」によりサーフィン競技会場の招致を行うっていく体制を整えました。

この委員会では、サーフィン会場の招致に向けた市民ムードの醸成を目指し、ポスターをはじめ、のぼり旗、横断幕の自主的な制作・掲示を行い、積極的なPRを図るとともに、女子サッカーチーム・オルカ鴨川FCの公式戦でサーフィンとサッカーをタイアップしたPRイベントを実施するなどの活動が展開されています。

このような市民活動のみならず、鴨川市においても、本年4月26日に本市を含む安房地区3市1町合同で、遠藤利明東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会担当大臣及び馳浩文部科学大臣を直接訪問し、サーフィン競技大会の安房地域開催に関する要望書を提出。また、5月12日には、国際サーフィン連盟のアギーレ会長宛に、特に本市の優位性をアピールする書簡を送付しました。

今後は、本年8月のIOC総会でサーフィンを含む追加種目が正式採用をされる見込みであり、その際、会場地については書面審査や現地調査

### 鴨川市地域おこし協力隊を香囀しました！



を経て候補が絞られるもの予想をされています。サーフィンがオリンピックの競技として認められた場合、これは世界初の快挙となるため、招致が成功した暁には、昭和41年に日本初の全日本サー

フィン大会が開催された本市にとつて、大きなレガシーに、そして、大会後のサーフィンをはじめとしたマリンスポーツの振興、ひいては地域の発展に繋げることができると大いに期待をされています。

市では、平成28年2月、清澄地区・四方木地区の活性化を目的に活動する「鴨川市地域おこし協力隊」として、橋詰良子（はしづめりょうこ）さん・鹿野光久（かのあみつひさ）さんの2名を委嘱しました。お二人には、これまでの経験や自身のスキルを活かしながら、両地区の交流人口・定住人口の増加に向けた活動、地域コミュニティの維持発展のための活動などを行っていただいています。最長3年となる任期の中で自身の生業を確立し、これらの活動をとあして本市への定住につなげていただけることを期待しています。

お二人の日常や日々の活動のほか、各種イベント情報などは、隊員のfacebookにて公開しています。右のQRコードを読み取っていただくか、「facebook 清澄・四方木」で検索のうえ、ご覧ください。また、ご覧いただいた際には、ぜひ「いいね！」や「シェア」をお願いします。（公開している情報が拡散されます。）



#### ▼地域おこし協力隊とは

総務省が平成21年度から取り組んでいる事業で、地方公共団体が都市地域から地域の活性化に意欲のある人材を「地域おこし協力隊」として受け入れ、様々な地域協力活動に取り組んでいくことで、地域の課題解決を図りながら、ご本人の定住につなげようとするものです。